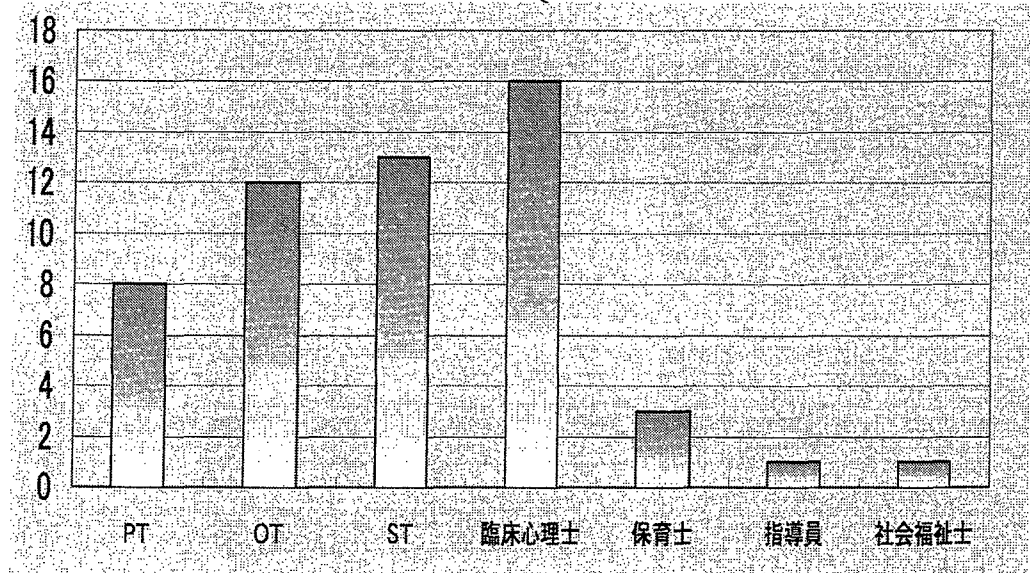
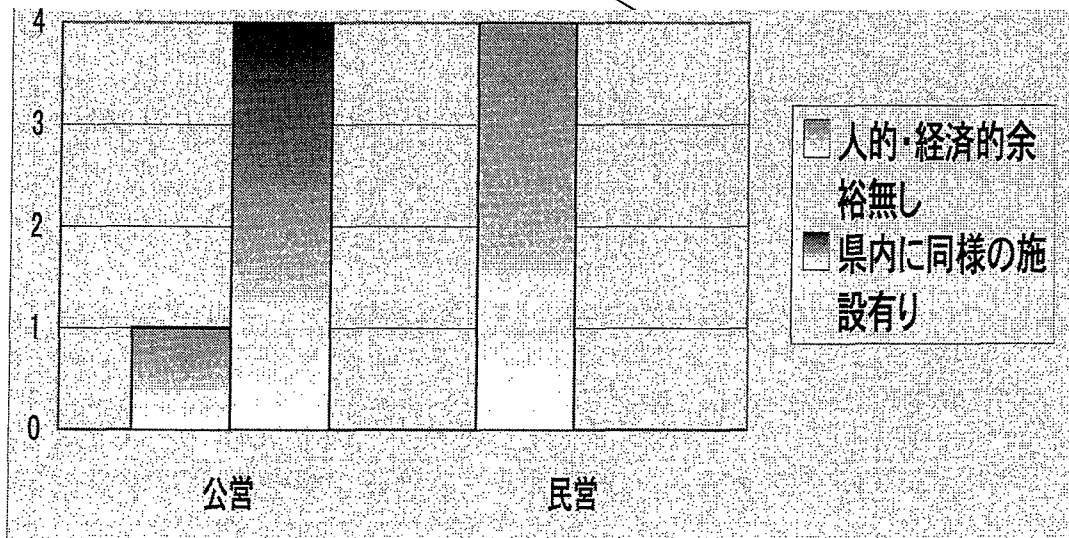


### 増員したい職種(医師以外)



### 実施していない理由 (公営・民営別)



## まとめ

- 「施設外療育活動」は、約80%の施設で実施されており、過疎・僻地を含め「地域での療育機能を補う」大きな役割を果たしていると思われた。
- 実施場所は、療育専門機関、保健所がとくに多く、地域の保育所・幼稚園、学校などでの実施も少なくなかった。  
※1施設が、家庭での訪問指導を行っていた。

- 派遣医師は、整形外科医、小児科医が多いが、対象は、発達障害児の占める割合が比較的多く、さらに増加傾向にあることから、小児精神科医、小児科医、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士などの増員を望む施設が多い。
- 公営・民営を問わず、経営的には不利な面が多いが、ほとんどの施設が「重要な使命」と考えて実施していた。
- 地域の状況にもよるが、「施設外療育活動」は、肢体不自由児施設のひとつの重要な役割であると思われた。

## 発達障害児の地域療育の構図への提言

(療育資源を持つ一肢体不自由児施設から)

### 自閉症における協同運動障害は

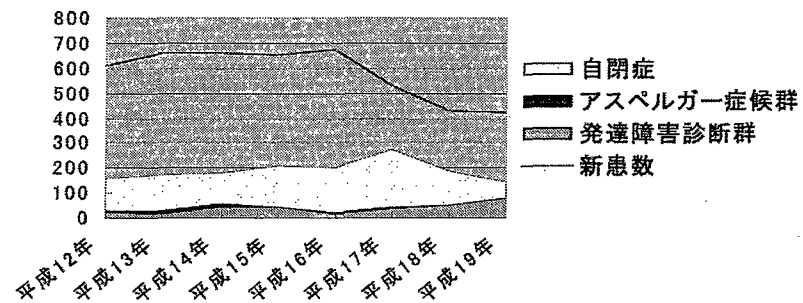
基礎運動能力の障害というだけでは説明できない。そしてこの障害は、社会性、コミュニケーション、行動障害に強く関連しており、自閉症の中核症状でかつ障害の神経学的側面のマーカーでもある。

(MA Dzik 2007 "Dyspraxia in autism association with motor, social, and communicative deficits")

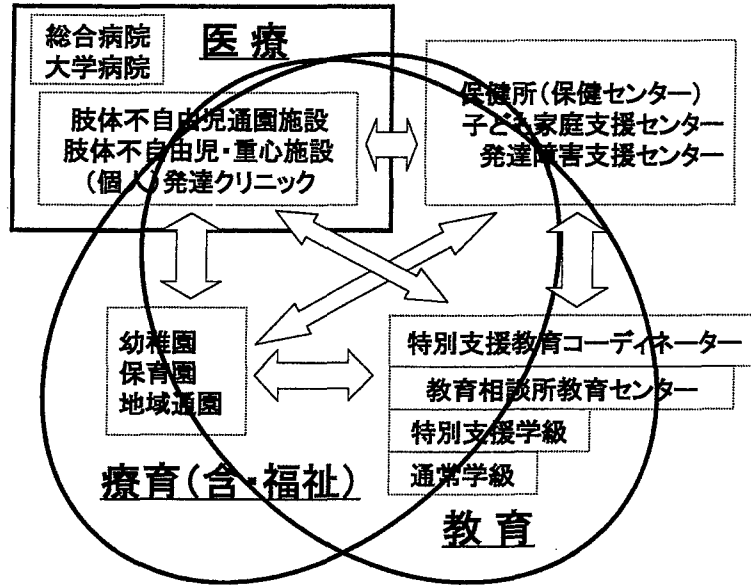
⇒ リハ的介入(医療)がかかわる合理性

## 発達障害児の外来受診の増加

外来に占める発達障害児



## 発達障害児の地域療育の構図

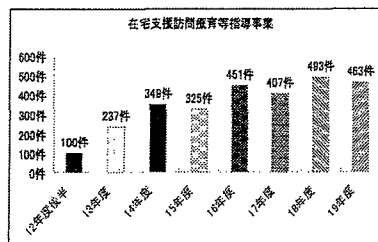
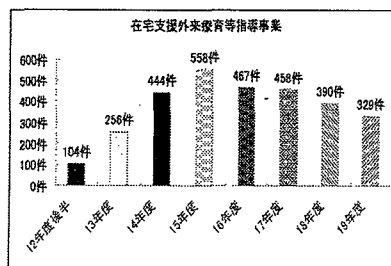
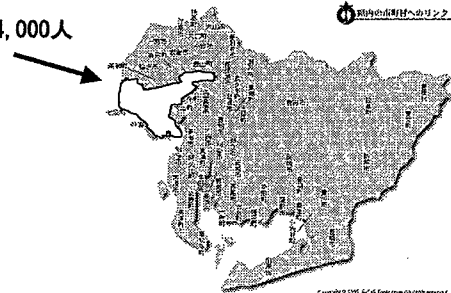


## 当センターの受け持ち福祉圏域

### 対象エリア

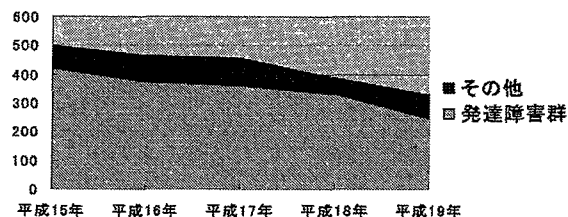
海部津島・尾張中部圏域：全13市町村

人口 484,000人

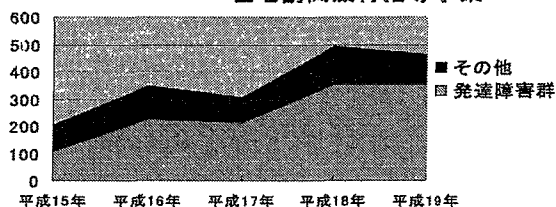


## 地域療育等支援事業における自閉症支援

在宅支援外来療育指導事業



在宅訪問療育指導事業



## 発達障害児がリハスタッフに求めたもの

※ 作業療法：平成 19年、15件の場合

OT開始年齢	OT依頼理由	潜む問題点
3歳6ヶ月～9歳1ヶ月 (平均4歳11ヶ月)	力加減が難 2	筋緊張が低い
	利き手がない 1	body image が低い
	すぐ疲れる 1	中枢が不安定
	不器用 12	認知能力
	手を使わない 1	触・聴・視覚過敏
	姿勢維持難 2	

※ 理学療法：64人が継続中

PT依頼理由：すべて粗大運動発達の遅れ

## 発達障害児がリハスタッフに求めたもの

※ 言語聴覚療法: 191件の指導内容

### コミュニケーション支援

前言語	36(19%)	} 128(67%)
言語	73(38%)	
語用論的	19(10%)	
構音障害	14(7%)	
代替コミュニケーション	5(2.6%)	
評価・指導	13(6.8%)	
親サポート	24(13%)	
食事指導	5(2.6%)	
認知処理アプローチ	2(1%)	

## 「ちびっこくらぶ」の紹介

「ちびっこくらぶ」は、当センターが企画した自閉症児療育グループです。半年を1クールとし、週一度、OT、ST、保育士、心理士が参加。子どもの見方や関わり方を模索します。

クール終了後も親だけ当センターに月1回集い1年半フォローします。また生活支援事業のもとに子どもの属する地域の保育園、通園施設にスタッフが出向き、保育士と保健師に子どもを理解してもらいます。

結果、地域の保育士・保健師に理解してもらえた。また、親がわが子のことを伝える事ができ、依存的な関わりかたから、一緒に療育計画を。